この爆撃時刻は日本側の記録とほぼ一致し、また、「二五〇ポンド爆弾二〇発投下」との記述は、「京都空襲を記録する会」の調査によって判明した十数カ所の投弾地点ともよく符号します。したがって、今までの通説は訂正する必要があります。

証言　血まみれのお母さんの死体に抱かれていて助かった赤ちゃん

清水喜美子さん
（京都市東山区在住・一九二〇年生まれ）

私は当時、妙法院前側町に住んでいました。その日は地震の後、空襲があり、現在のホテル東山閣の北側にあった壬生さんという爵位のある西本願寺関係の人の広い邸宅の庭先の防空壕に爆弾が落ちました。警報は出ていなかったので、防空壕には誰も入っておらず、家屋の倒壊などもありませんでしたが、北隣の民家の二階で女の赤ちゃんと寝ていたお母さんは、爆弾の破片を受けて頭が半分吹き飛んで即死だったそうです。しかし、赤ちゃんは無事でした（同じく妙法院前側町に住んでおられた真渓志津子さんの回想記では、部屋の中は血の海で、お母さんの死体に一晩中抱かれていた赤ちゃんも血まみれだったそうですが、幸い、ケガはなく、明け方に無事救出されたとのこと）。また、壬生さんの家の南向かいの亀村さんがケガをされたので、私が付き添って救護所になっていた修道国民学校へ連れて行きました。東大路以西での被害はこれだけだったと思います。

一九四五年一月二三日　宇治市、久御山町御牧、南丹市園部町榎

「知事事務引継書」によると、午後二時四〇分、宇治郡宇治町（現・宇治市）と久世郡御牧村（現・久御山町）で、機関砲弾により四人が重軽傷を負ったとあります。

また、午後三時三五分、数機のB29が船井郡西本梅村（現・南丹市園部町）上空を北